

Lesson 10. 標本抽出

§ B. 標本抽出法

標本抽出法

• 確率標本抽出法

母集団の成員が標本集団に選ばれる可能性は確率的である。

• 非確率標本抽出法

母集団の成員が標本集団に選ばれる可能性は確率によらない。

確率標本抽出法

- 単純(単一)無作為抽出
Single Random Sampling
- 系統的抽出 Systematic Sampling
- 層別化抽出 Stratified Sampling
- クラスター抽出 Cluster Sampling
- 多段階抽出 Multi-stage Sampling

単純無作為抽出

- サイズNの母集団から抽出する標本サイズnの集団が同じ確率で選ばれる可能性を持っている。
- 乱数表や電話帳、サイコロ、くじなどによりまったく無作為にn個の標本を選び出す。

系統的抽出

- 構成要素ごとの一覧表などから一定の間隔、例えばX番目ごと標本を抽出する。
- 一覧表が元から周期的でないことを確認する必要がある。

層別化抽出

- 特質(性別、年代、職業など)により分けられた層 Strata の中より無作為に対象者を抽出する。
- 一つの層の中ではできるだけ均質に、異なった層では異質(不均一)であることが保証されなくてはならない。

クラスター抽出

- 母集団からいくつかの小集団(クラスター Cluster)を抽出し、その小集団の成員全員を対象者とする。
- あらかじめクラスターごとの名簿があれば時間と費用が節約できる。
- ただし、確率的正確度は低下する。

多段階抽出

- 母集団からいくつかの小集団を抽出し、さらにその小集団より無作為に対象者に抽出する。
- 場合により、母集団から中集団を選び、さらにその中から小集団を選んだ後に対象者を抽出するように、段階をいくつも設けることがある。

非確率標本抽出

- 有意(または判定的)選択
Purposive (or Judgmental) Selection
 - 知識や経験より、母集団の特性を最も表していると推測される対象者を選ぶ。
- 割り当て抽出 Quota Sampling
 - 以前行われた調査で割り当てられた構成と同じになるように随意に選択する。

非確率標本抽出 (続き)

- 入手可能対象者抽出
Available Subject Sampling
 - データの入手が可能ならだれでも用いることとする。
